

第71回卒業式



紫藤通信

冬、寒さも和らぎ春の気配が訪れ始めた三月三日、令和三年度第七十一回卒業式が厳かに挙行された。今回の卒業式は新型コロナウイルスの影響で保護者の参列が叶わず、動画で中継され、会場は教員と卒業生のみの卒業式となった。式は次第通り粛々と進み、卒業生三二三名の呼名が終わると、校長先生より、「コロナ禍で私たちの活動も縮小を余儀なくされている。ただ、この状況下での努力は自分たちの宝であり、今後にも良い影響を与えていくだろう。『天は自らを助くる者を助く。人事を尽くして天命を待つ。』という格言の精神を忘れないで欲しい。」と祝辞を述べられた。続いて岡理事長より、「皆さんは今年の四月から成人として扱われ、権利も与えられるが、義務と責任を負うことになる。ただ一人の人間として認められて、生きていく場与えられるということは素晴らしいことなので、しっかりと自立できる大人になって欲しい。」と述べられた。

続く卒業生代表の感謝の言葉では、三年八組の采原章太さんがこれからの抱負と教員・保護者への謝辞を述べていた。生徒は祝辞やお話をこれまでになく真剣さで聞いており、人生の先輩方から生きた糧を少しでも得ようとしているようだった。

式が終わると卒業生は「一抹の不安を抱きつつも、大きな希望を胸に輝ける明日へ向かって飛び立っていった。」

●各賞の受賞は次の通り

山村学園理事長賞	九組 根本 佳奈
学校長賞	七組 鈴木 友理
後援会長賞	四組 上西 萌夏
三カ年皆勤賞	一組 兼田 蓮
日本私立中学高等学校連合会会長賞	
埼玉県私立中学高等学校連合会会長賞	八組 金澤 陽菜
埼玉県私立中学高等学校保護者連合会会長賞	九組 岩淵 唯
山村学園創立者賞	二組 石川 佳樹
	一組 有田 真愛葉
	二組 西地 巧実
	三組 馬橋 和希
	三組 小林 萌依
国際文化賞	七組 佐藤 芙美江
山村要二記念賞	五組 高田 大将
埼玉県スポーツ振興協会会長賞	二組 畔蒜 瞭
	三組 飯島 実優
山村ふみよ記念賞	六組 小山 夏美
産業教育振興中央会会長賞	
埼玉県産業教育振興会会長賞	六組 岡崎 楓
	六組 荒井 悠友

発行所
山村国際高等学校
坂戸市千代田1-2-23
☎ 049-281-0221

印刷所
有限会社 須賀印刷

<http://www.yamamura-kokusai.ed.jp>

読書との新たな出会い

校長 中山達朗

新聞や本を読むことは、文字を追うことだけでなく、脳の思考を活性化することに役立つと言われていました。

小学校・中学校・高校・大学とスポーツとの関りが生活の中心であった私は、他人に言えるほど本を読んでいたとは言えません。

しかし、勤務地の関係で初めて電車通勤を経験したことが、読書との新たな出会いとなりました。往復三時間の通勤時間をいかに有効に使うかを考えた時、今までの反省も含め本を読むことを試みました。

その分野は、教育・歴史・社会問題・スポーツなど多岐にわたるものでした。特に、スポーツ指導者に係るものをよく読みました。若いときに、多くの本と触れ合うことは、豊かな人間性を醸成するとともに、学術的な知識を拡充させることができます。さらに、理性や教養など社会生活を営む上で大切なものを得るきっかけづくりに繋がるものです。

生徒の皆さんも、自分の時間とおして読書との新たな出会いを求め一冊でも多くの本を読んで欲しいと思います。



1学年 進路学習

進路ガイダンス

令和四年三月十五日

進路ガイダンスが1年生を対象に開催されました。1年生は「職業研究」をテーマに進路学習を進めてきましたが、今回は「業界・進路別聞き比べ講座」と題して、同じ業界であっても大学や短大・専門学校など、進路によって携わる仕事の内容が異なることを理解してもらうために、各業界への卒業生を輩出する大学や短大・専門学校、さらには埼玉県警をはじめとする実際の業界の方々をお招きし、それぞれの視点からお話を伺う企画でした。選択肢として、例えばIT・工業・美容・教育・福祉・ビジネス・看護医療などの業種がセッティングされました。当日のガイダンスに向け、グループワークを通して会社(組織)の内部では「役割」が細かく別れていることを事前に予習・確認していたこともあり、当日



は講師の先生方のお話をより真剣に聞くことができたように思います。加えて、各業界のリアルな情報に触れることで、生徒にとってはこれまでの漠然とした進路希望をより具体性をもって考えるきっかけになったのではないかと思います。引き続き2年生でも進路研究に励み、生徒が自分自身の進路希望を実現できるよう支え、応援していく予定です。ご来校いただいた講師の先生方には御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



2学年 進路学習

進路ガイダンス・三者面談

高校2年生は、進路について考える時間が増え、周りの友達や保護者と進路について話をする機会も多くなったと思います。七月、十二月、三月に行われた進路ガイダンス、ベネッセの方からの模試の振り返り方法や大学入試形態についての講話、今年度卒業生からの受験報告会、各クラス担任からの進路の話など、多くの刺激を受けるたび、生徒は自分自身と向き合い進路について深く考えました。

高校2年生は、進路について考えているように感じます。「日頃の勉強成果である評定と検定取得の大切さを学んだ」「共通テストと一般入試の対策方法と受験の組み合わせ方は人それぞれであることが分かった」「受験前の勉強だけではなく、受験後の勉強も大切」と、生徒の感想から感じられたのは、先輩のアドバイスを素直に受け取ることができているということ。



今後は進路資料室や進路指導の先生、そして担任や多くの先生方のアドバイスを頼りに次のステップへ進んで行ってもらいたいと思います。その際には、保護者の方々のご支援ご協力のほど々宜しくお願い致します。

三月の進路ガイダンスでは、各分野に分かれ実際に大学の先生による授業を受けたことによって、これから学ぶことへの実感が出来たと思います。また受験報告会は、受験生の実際の様子が聞けたことがとても印象に残っ



English Proficiency Improvement Seminar イングリッシュ スキルアップ セミナー

2月7日、恒例となったイングリッシュ・スキルアップ・セミナーが1年生対象に始まりました。通常のクラスをシャッフルした15名程度の少人数クラスで、それぞれに外国人講師がついて、5日間にわたり英語をメインに過ごすイベントです。通常とは異なるクラスで、かつ初めて会う外国人講師を相手に初日はやや緊張した様子でしたが、2日目以降は徐々に打ち解けていき、生徒たちは積極的に活動に参加していました。4日目には、日本の大学で学ぶ留学生たちもゲストで参加してくれました。彼らは欧米圏のみならずフィリピンやパキスタンなど、それぞれ多様な文化的背景をもち、母国について紹介する姿からは、自分自身のルーツにとっても誇りをもっていることが強く伝わってきました。そういった姿にも触発され、最終日、生徒たちは数名のグループごとに、SDGsや日本文化の紹介などをテーマに英語でプ



レゼンテーションを行いました。アニメーションを使用したり踊りを取り入れるなど、それぞれが工夫を凝らしたのになりました。最後は、外国人講師から修了証が手渡され、それを掲げての集合写真の撮影でした。その表情は、心なしか自信に満ちたものであったように感じます。英語を使って表現することへの敷居が、少しだけ下がった5日間になりました。講師の先生方、そして運営を担っていただいたISA社の皆様にもこの場を借りて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

British Hills English Study Trip ブリティッシュヒルズ語学研修



British Hills is a village on Mount Tenei in Fukushima Prefecture. It was built for Japanese students to enjoy British culture, tradition and language. The main building is in the style of a British manor house, a grand stone building like a palace, where rich English families would live half their lives, the other half in London. There are eight guest houses, beautiful half-timbered buildings, each with furniture brought from the United Kingdom, luxury beds and

bathtubs, and a common room with gorgeous sofas and armchairs, collections of English books, paintings and all the tea you can drink. It has the barracks styled on Caerphilly Castle in Wales, a tea house, a bar, an English school style dining hall and a snooker room. It is the perfect setting to enjoy British culture, while learning the English language.

In the middle of the corona pandemic, there were great fears that this year we could not go, but with careful planning and luck, we managed to go. With so much cancelled over the last few years, 36 students signed up to take part.

To increase the experience, everything from the planning and preparation was in English. On board the bus, the students watched an English film and we rose up the mountain into the village, blanketed in fresh snow. It was a truly Christmas feeling. Harry Potter, strong in mind, the students put on the provided manteaux and began a rich experience.

We had two guest houses exclusive to our students, allowing us to enjoy a little bit the Hogwarts common room experience. I hope there were no Harry Potter style midnight



adventures!

Most of our meals were in the grand refectory, with the crests of the counties of England decorating the walls, but we also ate in the octagonal dining hall, truly like an English school lunch hall. Students had five regular lessons: Survival English, Design your Ideal School, Snooker, Calligraphy and Cooking. They learnt to play snooker on real tables, 12 foot by 6 foot (3.65m x 1.86m), weighing over 1000kg. It is a game began in India, with the present rules created by a British army officer a hundred years ago. In the cooking lesson, they made shortbread to take home to their families and friends. In the evenings, some students took opportunities to join extra lessons, while others explored the beautiful buildings, and enjoyed the Christmas atmosphere. Everything from introduction, tour of the manor house, meals, checking in and out, shopping and of course lessons was in English!

The students tried really hard. They used English as much as possible, and enjoyed their efforts.

On the last day, we had a meal in the Falstaff Pub. Everyone experienced eating fish 'n chips, and many students enjoyed a (non-alcohol!) Butter beer, just like Harry, Ron and Hermione in the Hog's Head. It was a great end to three days rich in experiences and learning!

成人教育

今年四月一日から法改正により、成年年齢が一八歳に引き下げられます。近年、選挙権年齢が十八歳に定められたことや世界的にも成年年齢を十八歳と定める国が多いことを受けての法改正と言えます。この法改正に先立ち

三月十二日(土)、二年生を対象に弁護士の小関利幸様に「成人教育」の講話をお願いしました。講話ではお金に関わる話が中心でした。「十八歳で成年になることで、親権者の承諾なく有効に契約することができるといえる点では、何でも好きなようにできると捉えられる反面、未成年のあることを理由に契約を取り消すことができなくなるといえる点でもあり、注意をしなければならぬ」ということです。お金に関わることに慎重に対応しなければならぬことを学ぶことができました。一方、ネガティブなことばかりではなく、年齢を引き下げることによって二十歳になる前から一人暮らしや投資、公認会計士や薬剤師等の資格を取ることができるメリット

もあるというお話も聴くことができ、四月以降に十八歳を迎えるにあたり有意義な機会となりました。



相談窓口は次の通りです。

・消費者ホットライン 「188」
・日本司法支援センター
「0570-078374」



活躍している部活動

■サッカー部

三年生が引退し、レギュラーメンバーのほとんどが入れ替わる形で新チームが立ち上げとなり西部地区新人大会に臨むことになりましたが、結果としては第3位という過去最高の成績を収めることができました。この結果を残すことができた要因は、「二年生の取り組みはもろいですが、それだけでなく卒業した三年生が積み上げてきた直向きさが少いチームに浸透してきた」というからだと思います。来年度も大会での結果を求めつつ、チーム目標である「すべての人々に応援され信頼されるチーム」へと近づくために、謙虚に、そして直向きに日々励んでいきたいと思っています。引き続き応援よろしくお願いします。



「二〇二二年大会結果」
インターハイ 県大会出場
高校サッカー選手権 県大会出場
西部地区新人大会 第3位

■男子ソフトテニス部

今年度は、多くの大会に出場でき、収穫の多い年となりました。個人戦では、厳しい西部地区予選を勝ち抜き、春の関東大会県予選、夏の県選手権大会、秋の新人戦県大会とすべての県大会に出場することができました。団体戦では、新人戦西部地区予選でベスト4の成績をあげ、初の県大会出場を果たし、新人戦県大会ではベスト16となり、県高校インドア大会では、本校初のベスト8の成績を収めることができました。しっかりと目標を見据え、日々の練習に集中して取り組んだ成果であり、部員一人一人の成長を感じることのできた一年でした。これからも日々の小さな積み重ねを大切に、関東大会出場の日標に向かい、精進してまいります。

■吹奏楽部

「宇宙の代から巨人の代」にバトンが渡り、県外で行われる全国大会のステージが新体制のデビューとなった。部員全員で一致協力し最高の演奏をホールに響かせた。しかし全国のレベルは高い。その地で悔しい思いを残し、現在では来年度に向けての練習をこれからこなしていく。アンサンブルコンテストでは各パートが奮闘し結果を残した。特にサクソフォン五重奏は埼玉県知事賞を受賞、第一位を収めた。また、サクソフォン協会主催の権威あるコンクールでも全国大会に出場し金賞を得た。この吹奏楽部の活動は「会」しかできない。たくさんの方からの協力がなければ絶対にできない。部員一人一人が感謝の気持ちをもって、恩返しができるよう全力で活動していきたい。

【結果】

全日本ポピュラーステージコンクール
全国大会 優秀賞
全日本ブラスシンフォニーコンクール
全国大会 審査員特別賞
吹奏楽教育協会アンサンブルコンテスト
サクソフォン五重奏 埼玉県知事賞
フルート四重奏 金賞 奨励賞
クラリネット三重奏 金賞
埼玉県アンサンブルコンテスト地区大会
クラリネット四重奏 金賞 県 銀賞
金管八重奏 銀賞
サクソフォン協会アンサンブルコンテスト
全国大会 金賞

■ダンス部

ダンス部一・二年生十七人が、日本テレビ「THE DANCE DAY 関東大会」に出演しました。普段出場している高校生の大会とは異なり、世界で活躍しているプロの方が多く参加しており、勉強になった一日となりました。また、世界的に有名なダンサーが審査して下さり、温かくも厳しく、そして的確なアドバイスをいただくことができました。今後の演技に生かしていきたいと思っています。



二〇二二年度生の進路状況

【大学】

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の中での受験シーズンとなったが、大学共通テストは予定通り実施され、国立・公立大学の二次試験も面接が書類審査に変更されるなどの若干の変更はあったものの、概ね予定通り実施された。

二〇二二年度共通テストの志願者五三〇・三六七人(前年比九二・一%)は若干減少したが、受験者数は四八八・三八四人(前年比一〇〇・九%)と若干増加し、受験率は九二・〇八%で前年度より一・六三ポイント上昇した。なお、本校では九四名の生徒が共通テストを受験した。

私立大学においては、昨年度は共通テスト導入年度であることや新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、首都圏の大学の出願者数は大幅に減少したが、今年度は多くの大学で志願者の増加がみられた。大学別でみると、早稲田大・慶應義塾大の最難関校が増加したのを始め、明治大・法政大などの毎年多くの志願者を集めている人気大学での増加が目立った。また、昨年度大幅に志願者を減らした國學院大・武蔵大・東洋大が一転して大幅に志願者を増やした。今年度は女子大も昨年に比べ志願者の増加が目立ち、津田塾大・東京女子大・日本女子大のすべてが志願者を増やした。昨年の志願者減の反動もあるが、東京女子大・日本女子大については、英語外部試験利用入試で志願者が大幅に増加したことが全体の志願者増につながった。

本校の生徒も約六六%の生徒が大学への進学を決めている。以下は令和三年度卒業生の大学の入試結果である(令和四年三月一七日現在)。本校の大学進学率は年々増加している。特に普通コースの生徒の大学進学率は大幅に増加し、過去最高の数値となっている。

【短期大学】

短大への進学を決めた本校生徒は、昨年度とほぼ変わらず八・〇%(昨年度八・四%)であった。系列校の山村学園短期大学子ども学科に七名が進学予定である。それ以外では、看護系(埼玉医科短期大学に二名合格)をはじめ栄養系・ビジネス系といった多様な進学先が並んだ。今年も推薦系入試(総合型選抜・学校推薦型選抜)に向けてしっかりと準備・対策を行い、見事合格を勝ち取った生徒が多い。

【専修学校】

専修学校を希望する生徒は、昨年よりやや減少し一七・六%(昨年度二〇・九%)であった。学ぶ学科・コースは、医療系(看護・理学療法・柔道整復)・観光系・建築系・情報系など多岐にわたるが、中でも人気が高かったのは看護を含む医療系・公務員養成系であった。

進路報告

進路指導部より



国立・公立大学	
茨城大学	2
島根県立大学	1
埼玉大学	1
群馬県立女子大学	1
都留文科大	1
東京外国語大学	1
富山大学	2
私立大学	
麻布大学	1
亜細亜大学	6
足利大学	1
跡見学園女子大学	4
浦和大学	1
桜美林大学	1

学習院大学	2
学習院女子大学	3
神奈川大学	1
神田外語大学	5
共立女子大学	2
国立音楽大学	1
工学院大学	2
國學院大学	4
国士舘大学	7
駒澤大学	5
駒澤女子大学	2
埼玉医科大学	2
埼玉工業大学	1
産業能率大学	1
実践女子大学	2
十文字学園女子大学	4
淑徳大学	5
順天堂大学	1
城西国際大学	4
城西大学	14
上智大学	1
尚美学園大学	10
昭和女子大学	2
女子栄養大学	3
駿河台大学	7
成蹊大学	1
成城大学	2
清泉女子大学	1
聖徳大学	1
西南学院大学	1
専修大学	5
創価大学	2
大正大学	2
大東文化大学	31
拓殖大学	5
玉川大学	1
津田塾大学	4
帝京大学	12
帝京科学大学	1

帝京平成大	3
東京医科大学	2
東京家政大学	3
東京経済大学	2
東京工科大学	4
東京国際工科専門職大学	1
東京国際大学	25
東京情報大学	1
東京女子大学	3
東京電機大学	6
東京福祉大学	2
東京富士大学	1
東京未来大学	1
東洋学園大学	1
東洋大学	16
獨協大学	1
二松学舎大学	4
日本医療科学大学	8
日本経済大学	1
日本工業大学	2
日本女子体育大学	2
日本体育大学	2
日本薬科大学	13
文化学園大学	3
文京学院大学	10
法政大学	3
武蔵大学	8
武蔵野音楽大学	1
武蔵野学院大学	2
武蔵野大学	6
明治学院大学	1
明治大学	2
明星大学	3
目白大学	5
ものづくり大学	3
横浜薬科大学	1
立正大学	3

カウンセリングルームより

新型コロナウイルスが流行して三年目に入りました。感染対策のある生活には慣れてきましたか？様々な感染対策を行うことでウイルスからは守られますが、感染への不安を感じたり、長期にわたるストレスでなんとなく心や身体の不調が続いているという人も多いのではないのでしょうか？長期にわたるストレスの蓄積は、急激なストレス要因と違い、じわじわと心身の健康をむしばむといわれています。また春は、入学やクラス替えなど環境の変化が多く、気づかない間にストレスが高まりやすい時期でもあります。

今回は日々のストレスとうまく付き合うコツを紹介します。

健康心理学が専門の早稲田大学の竹中晃二教授は「このABC」を提唱しています。
AはAct(行動してみる)。
BはBelong(集まりに参加する)。
CはChallenge(挑戦する)です。

好きな音楽を聴いたり、本を読んだり、運動すること、おしゃべりすることなどがA。あなたはどんなActをしていますか？

Bは、部活動や習い事などに参加する。共通の目的がある集団に参加することで、気分転換や刺激を受けることが出来ます。刺激が無いことも実はストレスになるのだそうです。

Cは少し苦手なことや、やったことがないことに取り組んでみる事です。これも満足感や達成感を味わうことにつながります。そういえばこのコロナ禍で、初めて楽器の練習を始めたとか、料理

を作るようになったという人がいました。料理は家族に好評で嬉しかったそうです。竹中教授は、「このABC」を実践することで良いメンタルヘルスを保つことが出来るとおっしゃっていました。

それでも悪いことに目が向いてしまつて、深く考え込んでしまうことだってあります。そういう状態だと気づいたら、小さな楽しみを日常生活に作ってみませんか。例えば、久しぶりの友人と連絡をとってみるとか、美味しい物を食べる、休日に何か楽しい予定を入れる。イライラしたときには、一度考えをお休みして、深呼吸をしたり、ストレッチや散歩をして気分転換をしてみると良いですね。気の合う友人や家族と楽しく話せると気分転換になります。SNSも良いけれど、会って、顔を見ながら話せると雑談だって話が弾みます。

私は、一日一回空を見上げる、ゆっくりお風呂に入る、よく眠る、の三つを心がけています。人間らしい生活スタイルを取り戻すチャンスが、コロナ禍なのかもしれないと最近思うようになりました。

コロナを恨まず、自分自身の時間を大切にしていって、一つ一つ丁寧に日常生活を過ごす。これがストレスとうまく付き合うコツかもしれませんね。三月から四月にかけては環境が変わる方も多いと思いますが、どうぞ自分の心と身体を大切に過ごすことを実践しましょう。気分がひどく落ち込む、楽しいことが何もない、人と話すことが面倒で一人でいたい、眠れないなどの症状が続いている人は、一人で抱え込まず、早めに「しんどい」と周りの人に伝えてください。良かったらカウンセリングルームにも相談に来てくださいね

事務室だより

事務長 師岡 昇

本年度においても、コロナ禍が始まった令和三年度、学校行事を始めとして何もかもが中止や延期で事業計画どおりに進められない状況でしたが、皆様方の多大なご理解とご協力をいただき無事に進めることが出来ました。心から感謝申し上げます。

事務事業では、要望にあったB館トイレ改修工事と図書館空調工事を行うことが出来ました。令和四年度はA館トイレ改修工事とA館空調工事の計画が進んでいます。その時は施設関係でご不便をおかけすることもあるとは思いますが、全ての生徒が安心・安全に勉強や部活動に打ち込める環境作りを順次整えていきたいと思っておりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

皆様には、授業料の納入、就学支援金及び埼玉県の父母負担軽減申請等におきまして、大変お世話になりました。皆様のご協力により手続きが全て完了し、現在届け出のある授業料振替口座への振込処理をいたしましたので、確認をお願いいたします。

なお、国の高等学校等就学支援金の申請は令和四年度より申請方法がオンライン申請となります。ログインに必要なID・パスワードを生徒に配布しますので、届きましたら、申請手続きを行ってください。

また、「父母負担軽減申請等」については従来通り紙ベースで書類を提出していただくことになる予定です。例年通りですと、第一回目の申請は六・七月に生徒を通してお知らせいたします。お手元に資料が届かない場合は、事務室までご連絡ください。